

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第50週のインフルエンザの患者数は50万人を上回り、12月としては既にかなり大きな流行となっているが、更に患者発生数は増加していくと予想される』

薬局サーベイランスによると、今シーズン（2019/2020年シーズン）の2019年第50週（12月9日～15日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は約517,000となりました。前週の値（第49週；322,000）を大幅に上回っており、また第43週以降8週間連続して増加が続いています（図1）。休日明けの第51週の月曜日（12月16日）の1日当たりの推定患者数は約145,000と今シーズンの最多（約103,000）を更新して、第51週も患者数は増加していくものと予想されます。

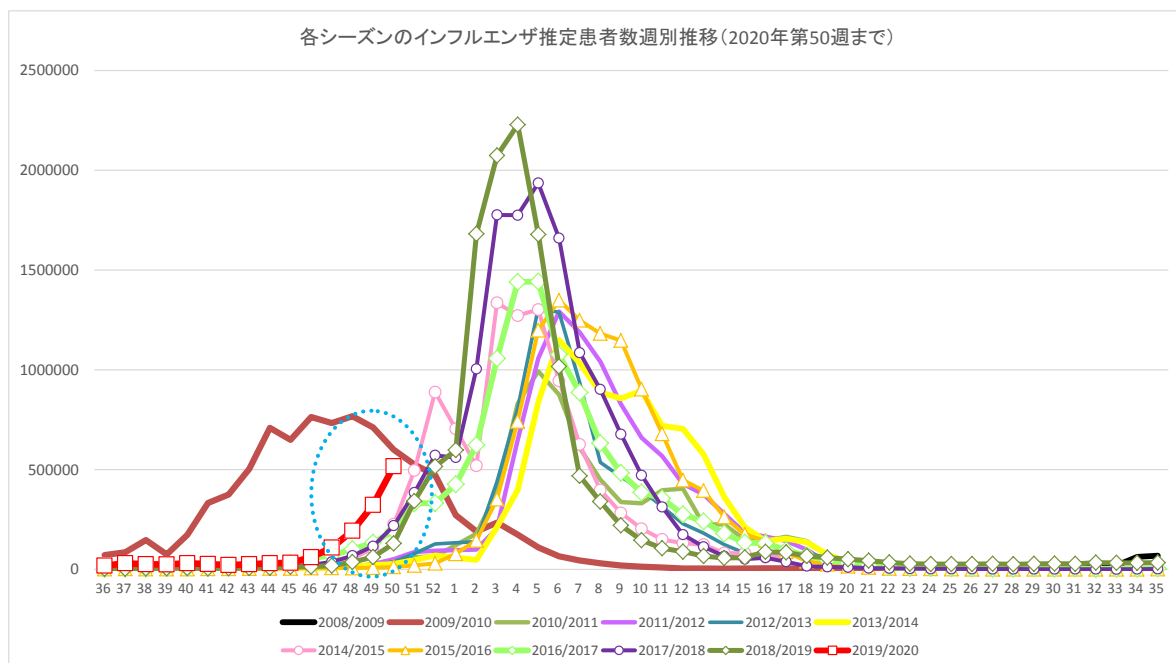


図1. 過去11シーズンと今シーズン（2019/2020年シーズン）の第36～第49週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019年第36週から第50週までの累積の推定患者数は約1,467,000であり、年齢群別では5～9歳（23.4%）、10～14歳（16.8%）、40～49歳（14.2%）、30～39歳（11.1%）、1～4歳（10.2%）の順となっていて、14歳以下の罹患者数が全体のほぼ半数となっています（図2）。

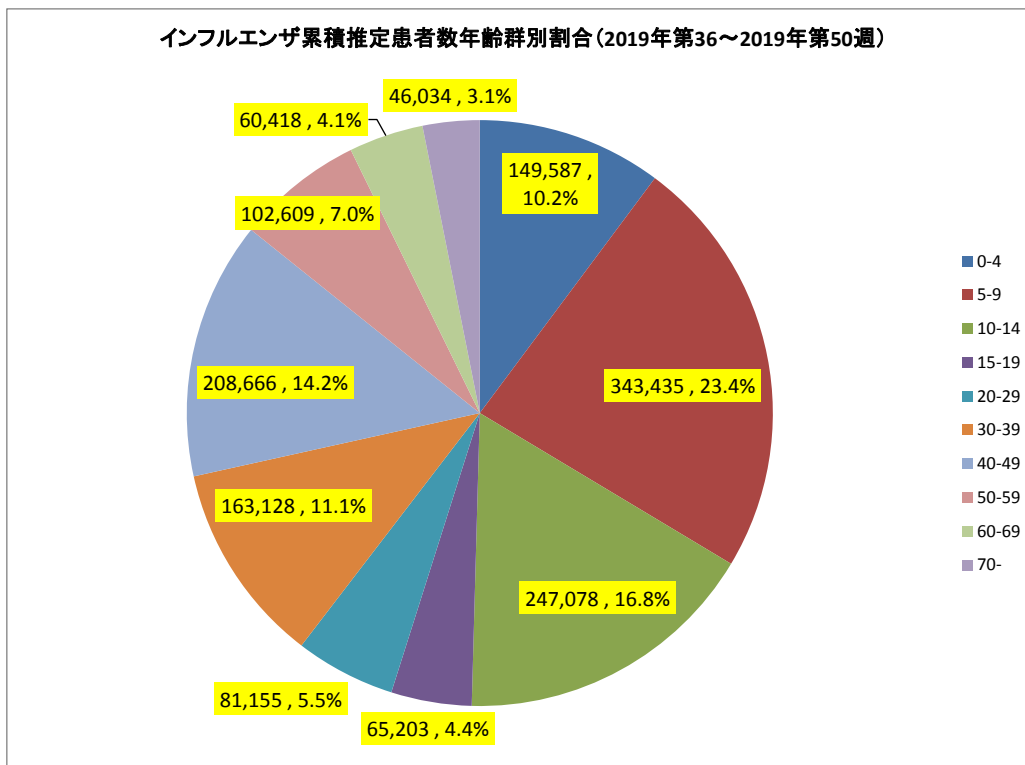


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2019 年第 36～2018 年第 49 週、累積推定患者数=約 1,467,000)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(806 検体解析)は、A/H1pdm が 91.3%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 4.8%、B 型 3.8%の順となっています。

第 50 週のインフルエンザの患者数は 50 万人を上回り、12 月としては既にかなり大きな流行となっていますが、第 51 週以降更に患者発生数は増加していくことが予想されます。これからのインフルエンザの患者発生状況には十分な注意が必要です。

2019 年 12 月 19 日  
 済生会中津病院感染管理室  
 安井 良則